

# 県内復興・経済日誌（2017年11月）

1日

## 《会津身不知柿、東南アジアへ、JA 会津よつばで発送式》

会津地方特産の「会津身不知柿<sup>みしらず</sup>」を海外に輸出する発送式が、会津美里町で行われた。2016年に6年ぶりで輸出が再開し、現地での販促活動もあり、今年の輸出量は昨年約10倍に急増した。生産者は風評被害が少しでも払拭され、他の農産物にも広がればと期待している。

4日

## 《東北中央道の福島大笹生 IC - 米沢北 IC 間が開通》

東北中央自動車道の福島大笹生 IC（福島市） - 米沢北 IC（山形県米沢市）間の35.6kmが開通し、米沢市で福島・山形両県の合同式典が催された。開通した区間は栗子トンネル（8,972m）を含め無料で、国道13号のバイパス機能も担い、地域産業・観光の振興のほか、東日本大震災で山形県に避難している本県避難者の利便性向上につながると期待される。

7日

## 《マレーシア旅行関係者が来県、観光の魅力をPRするため県が招待》

県が招いたマレーシアの旅行会社や現地メディア関係者約20人が来県し、福島市内の果樹園でリングゴ狩りを体験するなど、県内観光の魅力について理解を深めた。こうした取組みにより、県は、観光資源の魅力の発信や旅行商品の開発、県産品の販路拡大につなげたいとしている。

8日

## 《県とデンソー、本県を女子バレー第2本拠地とする協定締結》

県と自動車部品製造大手「デンソー」（愛知県）は、国内最高峰Vプレミアリーグに所属する同社女子バレーボール部「エアリービーズ」のホームタウンパートナー協定を締結した。これにより、子会社「デンソー福島」（田村市）が立地する本県を第2の本拠地とし、来秋開幕する新リーグ公式戦やチーム合宿、県内小中学生を対象としたバレーボール教室の開催が予定されるなど、地域のスポーツ振興が期待される。

9日

## 《富岡町、帰還困難区域の2027年度までの復興再生構想案を提示》

富岡町は、町議会全員協議会で、帰還困難区

域に住民が帰還できるようにする「特定復興再生拠点」（復興拠点）の整備構想を明らかにした。復興拠点をJR夜ノ森駅周辺に設定し、2018年度から2022年度までに一部地域を整備し、2023年度から2027年度までに帰還困難区域の全域避難解除を目指す。

## 《葛尾村、村営診療所を開所、内科診療を再開》

葛尾村は、同村落合字菅ノ又に村営診療所を開所し、震災後医師不足により休止していた村内での内科診療を再開した。同村は、2016年6月に原発事故による避難指示が大半の地域で解除されたが、医療環境が整わず、住民の帰還が進まない一因ともなっていた。田村、三春、小野の3市町の医療関係者でつくる「田村医師会」が複数の医師を交代で派遣し、内科や小児科の患者を診療する。

10日

## 《東北清酒鑑評会で東日本酒造が最優秀賞を受賞》

仙台国税局は、2016年酒造年度（2016年7月～2017年6月）の東北清酒鑑評会の審査結果を発表し、純米酒の部で、「奥の松」醸造元の東日本酒造協業組合（二本松市）が最優秀賞、末廣酒造博士蔵（会津美里町）と渡辺酒造本店（郡山市）が評価員特別賞を受賞した。同じ県が上位2賞を独占するのは、同2賞が新設された2013年以降初の快挙で、全国新酒鑑評会で金賞受賞数5年連続日本一に輝いた県産酒の品質の高さを改めて証明した。

11日

## 《ミス・インターナショナル代表が三春町などを訪問、福島復興を世界に発信》

第57回ミス・インターナショナル世界大会に出場する各国代表が、三春町と川内村を訪れ、県内の復興状況に理解を深めた。川内村いわなの郷では、伝統芸能「浦安の舞」を鑑賞するなど住民との交流を深めた。ミス・インターナショナル代表は、福島へのさらなる復興を応援するため、SNSを通じて福島復興の様子や福島魅力を世界に発信する。

## 《県産食品輸入規制、EUが12月から解除を決定》

欧州連合（EU）欧州委員会は、原発事故後に課している日本食品の輸入規制の対象から、福島県産米を含む10県の農水産品を一部解除することを正式決定した。対象品目は、福島県産

米とコメ製品のほか、カニなどの甲殻類やブリ、カンパチ、マダイ、シマアジなどの水産品やゼンマイなどの山菜、タケノコで、12月1日から実施する。EU加盟国の英国へは2016年度に全農県本部が県オリジナル米「天のつぶ」などを輸出した。県では、フランスやドイツなど他の加盟国への販路拡大に弾みがつくと波及効果を期待している。

13日

《浪江町、復興拠点の計画案示す》

浪江町は、町議会全員協議会で、帰還困難区域の解除に向けた「特定復興再生拠点区域」（復興拠点）の計画案を示した。復興拠点は、津島地区約137㌔、荻野地区約340㌔、大堀地区約184㌔の合計3カ所（面積合計661㌔）とし、2023年3カ所全域の避難指示解除を目指している。

17日

《東京五輪・パラリンピックで、県内4市村ホストタウンに決定》

鈴木俊一五輪相は記者会見で、2020年東京五輪・パラリンピックの「復興『ありがとう』ホストタウン」として、県内4市村（南相馬、本宮、北塩原、飯館）を含む3県11市村を選出したと発表した。南相馬市は米国・韓国・台湾・ジブチ、本宮市は英国、北塩原村は台湾、飯館村はラオスのホストタウンとして、震災時に支援を受けた国や地域の人たちとの交流事業を進める。鈴木五輪相は「東京大会を機に復興の進んだ姿を世界に発信したい」と発言している。

19日

《福島市長選、前復興局長の木幡浩氏が当選》

福島市長選挙が投票開票され、新人で前復興庁福島復興局長の木幡浩氏が初当選した。待機児童解消や福島駅前再生など課題が山積する市政について、変革を期待する市民の支持を集めた。福島市は、2018年4月に中核市への移行を予定しており、岡山県副知事など豊富な行政経験を活かし、地域活性化をめざす木幡氏の手腕が期待される。

20日

《在外県人会サミット開幕、17カ国26県人会が集結》

第3回在外県人会サミットが開幕し、関係者など約30人が集結した。同サミットは、震災からの復興の進展や県内の現状を知ってもらい、海外での風評払拭や外国人の誘客につなげようと、県が2013年と2014年に続いて開いた。一行は、22日までいわき市や川俣町、楡葉町、伊達市、喜多方市など県内各地を視察し復興の現状への理解を深めた。21日には、国や県などと連

携し、風評払拭や県産品・産業の振興、海外と福島との交流促進に向けた「ふるさと福島応援行動宣言」を採択した。SNSへの現地語での発信や県産品のPR、2020年東京五輪の福島開催を応援するなど、福島復興を加速化するための取組みを宣言し行動することを誓った。

22日

《全国植樹祭200日前、JR郡山駅で記念セレモニー》

2018年6月10日に南相馬市で開催される第69回「全国植樹祭」の開催日200日前を記念し、JR郡山駅でカウントダウンセレモニーが行われた。式では、植樹祭開幕までの日数を告げるカウントダウンボードの除幕が行われ、県ゆかりのヴォーカルグループ「GReeeeN」書き下ろしの大会テーマソング「福ある島」が披露され、機運を盛り上げた。本県で全国植樹祭が実施されるのは、1970年5月の第21回全国植樹祭（猪苗代町）に続き2回目となり、天皇皇后両陛下によるお手植えや県内外からの参加者による記念植樹が行われる。

24日

《台湾で福島を紹介する展示会が開催》

台湾の若者達が組織する社会事業団体「インパクトハブ台北」の企画で、震災後の福島県の現状を映像や写真で紹介する展示会「福島、元気？」が、台北市内の文化施設で開催された。同団体は、台湾企業の寄付を募るなどして8月に福島へ取材のため来県した。映像には、被災地で生活する庶民の姿が記録され、同団体は「台湾での福島印象は汚染、地震といったマイナスのものばかりで、実態をもっと知ってほしいと思い企画した」と話した。展示開始から5日間で来場者が1万人を超えるなど、大きな反響を呼んだ。

30日

《「からむし織」、国の伝統的工芸品に指定》

経済産業省は、昭和村で300年以上の歴史がある「からむし織」を国の伝統的工芸品に指定した。からむし織は、イラクサ科の多年草で「苧麻」とも呼ばれるからむしを原料にした日本最古の織物で、県内では、「大堀相馬焼（浪江町）」「会津本郷焼（会津美里町）」「会津塗（会津若松市・喜多方市・南会津町・西会津町・北塩原村・会津美里町）」「奥会津編み組細工（三島町）」に続き、5件目の指定となる。記念セレモニーが行われた同村の関係者は、からむし織の維持発展に大きな励みになると期待を寄せている。